

(証券コード9763)
平成24年6月6日

株 主 各 位

東京都港区芝公園2丁目4番1号
丸紅建材ワ-ズ株式会社
代表取締役社長 清水 教博

第44回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第44回定時株主総会を下記の通り開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成24年6月21日午後5時15分までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成24年6月22日（金曜日）午前10時
2. 場 所 東京都港区芝公園2丁目5番20号
メルパルク東京 3階「牡丹」

3. 会議の目的事項

- 報告事項
1. 第44期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第44期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 取締役6名選任の件
- 第3号議案 監査役3名選任の件
- 第4号議案 補欠監査役1名選任の件

以 上

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類および連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.mcml-maruken.com>）に掲載させていただきます。

添付書類

事業報告 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により落ち込んだ企業活動や個人消費は、その後緩やかながら持ち直しの動きが見られたものの、欧州債務危機や海外景気の下振れリスクを抱え、長期化する円高や原材料の高騰の影響を受けるなど、依然として厳しい状況で推移しました。

当社グループを取り巻く建設業界においては、公共建設投資や民間設備投資は、一部で当初計画の凍結や着工延期の動きが見られたものの、年度後半から回復基調となりました。一方、補正予算の成立や復興計画の遅れにより、本格的な復興需要の多くは2012年度以降に持ち越しとなりました。

このような経営環境のもと、当社グループでは津波により被災した当社仙台ヤードを早期に再稼働させ、被災地での重仮設鋼材の供給を開始しました。また、関係会社の興信工業株式会社は、茨城県において、被災した水道施設の緊急復旧工事に対応いたしました。一方、前期末に公表しました原価や販管費の削減を中心とした経営合理化策の実施により、収益基盤の強化を図るとともに、採算管理の徹底や賃貸価格の適正化に取り組んでまいりました。また、海外において、関係会社のタイ丸建株式会社は、昨年タイ国で発生した洪水の直接的な被害を免れ、一部案件で着工延期等の影響を受けたものの、近隣諸国への展開も含め安定的な収益の確保に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、168億6千1百万円（前期比2千1百万円、0.1%増）、営業利益2億5千6百万円（同7億7千万円増）、経常利益3億8千4百万円（同8億2千9百万円増）、当期純利益3億3千7百万円（同16億8千8百万円増）となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

（重仮設）

前期と同様に需要と価格の低迷した状況が続きましたが、売上高は136億8千8百万円（前期比4億7千7百万円、3.6%増）となり、売上原価と販管費の削減を中心とした経営合理化策の実施により、セグメント利益は8億3千8百万円（同7億8千万円増）と増収増益になりました。

(重仮設工事)

受注工事案件の小口化により、売上高は18億7千4百万円（同3千1百万円、1.6%減）と減収となりましたが、セグメント損失は2千9百万円と、前期比5千3百万円の改善（損失減）となりました。

(土木・上下水道施設工事等)

前期と同様に厳しい受注環境が続き、売上高は12億9千8百万円（同4億2千4百万円、24.6%減）と減収になりましたが、原価低減に努めた結果、セグメント利益は2千7百万円（同0百万円、0.6%増）とほぼ前年度並みの利益となりました。

(注) セグメント利益又は損失(△)は、連結計算書類の営業利益と必要な調整を行っています。

第43期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	重仮設	重仮設工事	土木・上下水道 施設工事等	計	調整額	連結
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	13,210	1,905	1,723	16,839	—	16,839
(2) セグメント間 の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,210	1,905	1,723	16,839	—	16,839
セグメント利益 又は損失(△)	58	△83	26	2	△515	△513

第44期（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	重仮設	重仮設工事	土木・上下水道 施設工事等	計	調整額	連結
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	13,688	1,874	1,298	16,861	—	16,861
(2) セグメント間 の内部売上高 または振替高	0	—	—	0	△0	—
計	13,688	1,874	1,298	16,861	△0	16,861
セグメント利益 又は損失(△)	838	△29	27	835	△578	256

(2) 設備投資等の状況

当連結会計年度における設備投資の総額は1億1千4百万円であり、その主な内訳は、当社市原工場等の設備更新投資であります。

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度において、社債の発行や増資等による特別の資金調達はありません。

なお、当社は、資金調達基盤の安定と効率化を図るとともに、有利子負債の圧縮により財務体質を強化することを目的に、平成24年2月22日にシンジケーション方式によるコミットメントライン契約（融資枠15億円）を締結しております。

(4) 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、電力供給の制約やデフレの影響、海外経済の減速懸念等もあり、依然として厳しい状況が続くことが予想されます。

このような見通しの中、建設業界におきましては、震災の復興需要や一部地域でのインフラ整備需要が見込まれるものの、他地域では公共投資や民間設備投資の抑制も想定されます。当社グループは、国内では、地域毎の保有鋼材の最適化に努め、当期と同様に採算管理の徹底による原価の低減や賃貸価格の適正化に取り組み、海外では、タイ丸建株式会社を軸として東南アジア市場への展開に注力し、収益基盤の強化を図ってまいります。

(5) 企業集団の財産および損益の状況の推移

期 別 項 目	第 41 期 平成20年度	第 42 期 平成21年度	第 43 期 平成22年度	第 44 期 平成23年度 (当連結会計年度)
売 上 高(百万円)	21,267	19,587	16,839	16,861
経常利益又は 経常損失(△)(百万円)	699	254	△445	384
当期純利益又は 当期純損失(△)(百万円)	206	168	△1,351	337
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)(円)	6.18	5.03	△40.46	10.09
純 資 産(百万円)	8,741	8,735	7,227	7,731
総 資 産(百万円)	35,073	32,651	29,266	28,824

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)は自己株式を控除した期中平均株式数により算定しております。
2. 第43期において経常損失を計上した主な理由は、建設業界環境が一層厳しさを増す状況となったためであります。また、当期純損失を計上した主な理由は、第44期以降の収益改善のための合理化策や東日本大震災による損失等を特別損失として計上したことによるものであります。

(6) 重要な子会社等の状況

① 子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
興信工業株式会社	99百万円	100.0%	土木・上下水道施設工事、建築設備工事及び工場プラント工事
丸建工事株式会社	10百万円	100.0%	杭打抜・山留架設工事等
丸建基礎工事株式会社	50百万円	100.0%	杭打抜・山留架設工事等
東北工業株式会社	10百万円	100.0%	建設基礎工事用仮設鋼材の補修・加工
東播工業株式会社	10百万円	100.0%	建設基礎工事用仮設鋼材の補修・加工
九州レプロ株式会社	10百万円	100.0%	建設基礎工事用仮設鋼材の補修・加工

(注) 当社の子会社は上記6社であり、全て連結しております。

② 関連会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
協友リース株式会社	30百万円	50.0%	大型H形鋼等の賃貸・販売等
THAI MARUKEN CO.,LTD.	20百万BAHT	49.0%	建設基礎工事用仮設鋼材の賃貸・販売等
HIROSE MARUKEN VIETNAM COMPANY LIMITED	2百万US\$	50.0%	建設基礎工事用仮設鋼材の賃貸・販売等

(注) 当社の関連会社は上記3社であり、全て持分法を適用しております。

(7) 主要な事業内容

区分	事業内容
重仮設事業	建設基礎工事用仮設鋼材等の賃貸、販売、修理、加工等
重仮設工事業	建設基礎工事用仮設鋼材の杭打抜、山留架設工事、地中連続壁工事等
土木・上下水道施設工事等事業	土木・上下水道施設工事、建築設備工事及び工場プラント工事

(8) 主要な営業所および工場

① 当社

本社	東京都港区芝公園2丁目4番1号	
支店	北関東支店 (埼玉県さいたま市) 横浜支店 (神奈川県横浜市) 東北支店 (宮城県仙台市) 大阪支店 (大阪府大阪市)	千葉支店 (千葉県市原市) 札幌支店 (北海道札幌市) 名古屋支店 (愛知県名古屋市中区) 福岡支店 (福岡県福岡市)
営業所	函館営業所 (北海道函館市) 北九州営業所 (福岡県北九州市)	山形営業所 (山形県山形市) 沖縄営業所 (沖縄県中頭郡)
工場	市原工場 (千葉県市原市) 旭川工場 (北海道上川郡) 稲沢工場 (愛知県稲沢市) 東播工場 (兵庫県加古郡) 西原工場 (沖縄県中頭郡)	札幌工場 (北海道北広島市) 仙台ヤード (宮城県仙台市) 岐阜工場 (岐阜県安八郡) 若松工場 (福岡県北九州市)

② 子会社

興信工業株式会社 (本社：神奈川県横浜市)	丸建工事株式会社 (本社：東京都港区)
丸建基礎工事株式会社 (本社：北海道北広島市)	東北工業株式会社 (本社：宮城県仙台市)
東播工業株式会社 (本社：兵庫県加古郡)	九州レプロ株式会社 (本社：福岡県北九州市)

(9) 従業員の状況

企業集団の従業員の状況

平成24年3月31日現在

従業員数	前連結会計年度末比増減
264名	△28名

- (注) 1. 従業員数は当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社への出向者を含む従業員数であります。
2. 従業員数の減少の主な要因は、当社及び子会社において前連結会計年度末日に実施した希望退職者募集に伴う退職者によるものであります。

(10) 主要な借入先および借入額（当社）

平成24年3月31日現在

借入先	借入金残高
株式会社 みずほコーポレート銀行	1,950 百万円
株式会社 りそな銀行	1,950
株式会社 常陽銀行	1,950
株式会社 三井住友銀行	790
兵庫県信用農業協同組合連合会	700
株式会社 千葉銀行	690
住友信託銀行株式会社	580
株式会社 千葉興業銀行	540
農林中央金庫	500
株式会社 紀陽銀行	500

- (注) 住友信託銀行株式会社は、平成24年4月1日付け中央三井信託銀行株式会社及び中央三井アセット信託銀行株式会社との合併により、三井住友信託銀行株式会社に商号を変更しております。

2. 会社の株式に関する事項（平成24年3月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 100,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 33,391,747株(自己株式902,653株を除く)
- (3) 株主数 3,791名
- (4) 大株主の状況

株主名	持株数	持株比率
丸紅株式会社	11,676 ^{千株}	34.96%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,183	6.53
明治安田生命保険相互会社	1,102	3.30
株式会社りそな銀行	893	2.67
みずほ信託銀行株式会社	748	2.24
株式会社常陽銀行	748	2.24
丸紅建材リース取引先持株会	742	2.22
株式会社みずほコーポレート銀行	652	1.95
新日本製鐵株式会社	548	1.64
日本生命保険相互会社	468	1.40
JFEスチール株式会社	468	1.40

- (注) 1. 上記以外に自己株式が902千株あります。
2. 持株比率は、自己株式（902千株）を控除して計算しております。
3. 上記の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
- 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 2,183千株

3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 当社の会社役員に関する事項

(1) 取締役および監査役の氏名等

(平成24年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	清 水 教 博	
常 務 取 締 役	真 中 均	営業本部長
取 締 役	齊 藤 正 視	経営管理本部長、環境安全部・海外事業部担当
取 締 役	石 崎 久 雄	経営管理本部副本部長、総務人事部長、監査部・環境安全部担当役員補佐
取 締 役	岡 本 達 哉	営業本部副本部長、東京本店長、協友リース㈱代表取締役社長
取 締 役	井ノ上 雅 弘	(非常勤)
監 査 役	小 野 信	(常 勤)
監 査 役	棚 橋 栄 蔵	(非常勤)
監 査 役	駒 木 義 之	(非常勤)

- (注) 1. 取締役井ノ上雅弘は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役小野信、棚橋栄蔵および駒木義之は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 監査役小野信は長年にわたる事業会社運営管理などに関する幅広い知識・経験を通じて法務・財務・会計および当社業務内容に関する相当程度の知見を有しております。
4. 監査役棚橋栄蔵は弁護士の資格を有しており、法務・財務・会計に関する相当程度の知見を有しております。
5. 監査役棚橋栄蔵は東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
6. 当事業年度中の取締役および監査役の異動
- ① 新 任
 <平成23年6月24日付>
 取締役 齊 藤 正 視
 取締役 井ノ上 雅 弘
- ② 退 任
 <平成23年6月24日付>
 常務取締役 向 井 正 明

(2) 取締役および監査役の報酬等の額

区 分	支 給 人 員	報 酬 等 の 額
取 締 役 (うち社外取締役)	6名 (一名)	94百万円 (一百万円)
監 査 役 (うち社外監査役)	2名 (2名)	18百万円 (18百万円)

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務役員の使用人分給与は含まれておりません。
2. 報酬等の額には、当事業年度に係る役員賞与引当金繰入額5百万円が含まれております。
3. 上記の取締役の支給人員には、平成23年6月24日開催の第43回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでおります。

(3) 社外役員に関する事項

① 取締役

ア. 重要な兼職先である法人等と当社との関係

該当事項はありません。

イ. 当事業年度における主な活動状況

地 位	氏 名	主 な 活 動 状 況
社 外 取 締 役 (非 常 勤)	井ノ上 雅 弘	社外取締役就任後に開催の取締役会13回の全てに出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を適宜行っております。

② 監査役

ア. 重要な兼職先である法人等と当社との関係

該当事項はありません。

イ. 当該事業年度における主な活動状況

地 位	氏 名	主 な 活 動 状 況
社 外 監 査 役 勤 (常)	小 野 信	当事業年度開催の取締役会17回の全てに出席し、また、当事業年度開催の監査役会19回の全てに出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を適宜行っております。
社 外 監 査 役 勤 (非 常)	棚 橋 栄 蔵	当事業年度開催の取締役会17回のうち15回に出席し、また、当事業年度開催の監査役会19回のうち18回に出席し、主に弁護士としての専門的見地から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。
社 外 監 査 役 勤 (非 常)	駒 木 義 之	当事業年度開催の取締役会17回の全てに出席し、また、当事業年度開催の監査役会19回の全てに出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を適宜行っております。

5. 会計監査人の状況

- ① 会計監査人の名称
有限責任 あずさ監査法人
- ② 当該事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

当事業年度に係る会計監査人としての報酬	37百万円
当社および当社の子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	37百万円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、また実質的にも区分できないため、会計監査人に支払ったこれらの報酬の総額を記載しております。

- ③ 非監査業務の内容
当社は会計監査人に対して公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）であるIFRS（国際財務報告基準）に関するアドバイザー業務を委託し、その対価を支払っております。
- ④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針
会計監査人の解任につきましては、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定めるいずれかの事由に該当した場合に、取締役会ならびに監査役会において検討いたします。
また、不再任につきましては、会計監査人の職務遂行の状況、監査の品質等を総合的に勘案して、取締役会および監査役会において検討いたします。

6. 会社の業務の適正性を確保するための体制の整備に関する事項

当社は、平成24年3月27日開催の取締役会において、会社の業務の適正性を確保するための体制の整備について、以下のとおり決議いたしました。

(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

① 当社は経営理念を以下の3項目とする。

- ・私達は、社会・株主に対して存在価値の高い会社を目指します。
- ・私達は、顧客より高い評価と信頼を受ける会社を目指します。
- ・私達は、厳しい中にも公正で夢と誇りを持てる会社を目指します。

これらの考え方を役員・使用人に周知・徹底させ、企業としての社会的責任を果たす。

② 当社はコンプライアンス委員会を設置のうえ、コンプライアンス・マニュアルを作成し、コンプライアンス体制を確立する。コンプライアンス体制の一環として当社の顧問弁護士を窓口とする内部通報制度を設け、社員に対しその周知を図る。社内において研修等を通じ役員・使用人のコンプライアンス意識の醸成に努める。

③ 内部監査部門である社長直轄組織の監査部は、コンプライアンス体制についての監査を行う。

④ 役員・使用人の職務の執行において法令違反等が生じた場合、役員については取締役会、監査役会において、使用人については賞罰委員会に諮った上で、諸規程などに則り、厳正な処分を行う。

⑤ 当社及び当社グループの財務報告の信頼性の確保、及び金融商品取引法に基づく内部統制報告書の有効且つ適切な提出に向け、内部統制システムを構築するとともに、その仕組みが適正に機能していることを継続的に評価し、必要に応じ是正を行う。

⑥ 当社は社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力の排除に向け、毅然とした態度で臨み一切の関係を遮断する。そのための社内組織、体制を整えている。また、外部専門機関との連携を強化する。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

① 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関しては文書管理規程にて定める。

② 取締役及び監査役は、それらの情報を常時閲覧することができる。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 取締役及び各職位にある使用人は、社内規程において明確化された業務分掌及び職務権限に基づいて業務運営を行う。
- ② 取締役会は、少なくとも年に一度会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事象への対応についてリスク分析を行い、対応体制をレビューする。
- ③ 与信、事故、情報システム等のリスクに関しては、与信管理規程、安全衛生管理規程、情報セキュリティ対策規程を定め、リスク管理体制の構築及び運用を行う。
なお、様々な理由に起因するレピュテーションリスクについては、コンプライアンス体制の一層の強化等によりリスク管理を行う。
- ④ 監査部は、リスク管理体制についての監査を実施する。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 会社の意思決定の効率性を確保するために職務権限規程、稟議規程、予算管理規程等の規程を定める。
- ② 取締役会を月1回以上適宜開催し、迅速な意思決定と効率的な職務執行を行う。
- ③ 取締役会の決議による重要基本方針に基づき、当社の経営方針、各業務の執行方針を協議するとともに、取締役会に諮る稟議事項の事前審議を行うため、取締役及び社長が指名した者によって構成される経営会議を設ける。

(5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ① 当社は、当社及び子会社をもって企業集団を形成する。これらの子会社の管理に関しては、関係会社管理規程を制定し、内部統制システム体制を整備させる。
- ② 子会社については、経営企画部が業務全般を総括するとともに、子会社毎に所管部店を置き、適切な管理を行う。また、円滑な情報交換を推進するため、必要に応じて関係会社連絡会を開催する。
- ③ 当社コンプライアンス委員会及び所管部店は子会社のコンプライアンス活動の支援及び指導を行う。当社の顧問弁護士を窓口とする内部通報制度は、全ての子会社の役員・使用人が利用できることとなっている。
- ④ 監査部は子会社について、業務の適正が確保されているかについての監査を行う。

- (6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
- ① 監査役会の事務局業務は経営企画部の担当とする。
 - ② 監査役会の事務局担当部署の決定・変更に関しては、監査役会に事前に協議し同意を求める。
- (7) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する事項
- ① 取締役及び使用人は、監査役会に対して、法定の事項に加え、次の事項を遅滞なく報告する。監査役会への報告は、原則として常勤監査役に対して行う。
 - ・全社的に影響を及ぼす重要事項
 - ・内部統制に関わる活動概要
 - ・監査部の内部監査の結果
 - ・重要な会計方針・会計基準及びその変更
 - ・コンプライアンス・マニュアルに基づく報告・運用の内容
 - ② 監査役が、取締役会以外に出席すべきと判断する重要会議（コンプライアンス委員会、経営会議、全店会議、工場長会議等）について、それらに関わる役職員は事前の連絡等を周知徹底する。
- (8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 代表取締役と監査役会の意見交換会を定期的に開催し、経営課題・監査役監査の環境整備の状況・監査上の重要課題等について意見交換を行う。
 - ② 監査役会が、必要に応じて会計監査人・顧問弁護士等との意思疎通を十分に行える体制を確保する。
 - ③ 監査部長は、監査の方針・計画について監査役会と事前協議を行い、内部監査結果の報告を含め、緊密に連携する。
 - ④ 総務人事部法務審査課、環境安全部は、夫々担当するリスク管理に関わる事項を、常勤監査役に定期的に報告する。

(注) 本事業報告中の記載金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	百万円		百万円
流動資産	17,607	流動負債	16,358
現金及び預金	1,287	支払手形及び買掛金	5,850
受取手形及び売掛金	6,776	短期借入金	7,700
建設機材	8,771	1年内返済予定の長期借入金	1,412
商 品	29	リ ー ス 債 務	26
材料貯蔵品	303	未払法人税等	34
未成工事支出金	238	未払費用	804
繰延税金資産	83	未成工事受入金	127
その他の	203	賞与引当金	7
貸倒引当金	△ 86	役員賞与引当金	7
		その他の	387
固定資産	11,217	固定負債	4,735
有形固定資産	9,256	長期借入金	3,269
建物及び構築物	821	リ ー ス 債 務	52
機械装置及び運搬具	229	再評価に係る繰延税金負債	1,107
土地	8,105	退職給付引当金	211
リース資産	75	訴訟損失引当金	72
その他の	25	その他の	23
無形固定資産	6	負債合計	21,093
ソフトウェア	5	純 資 産 の 部	
その他の	0	株主資本	6,053
投資その他の資産	1,954	資 本 金	2,651
投資有価証券	1,391	資 本 剰 余 金	924
長期貸付金	7	利 益 剰 余 金	2,603
長期前払費用	1	自 己 株 式	△ 125
繰延税金資産	381	その他の包括利益累計額	1,677
その他の	543	その他有価証券評価差額金	26
貸倒引当金	△ 369	土地再評価差額金	1,830
		為替換算調整勘定	△ 179
資産合計	28,824	純資産合計	7,731
		負債及び純資産合計	28,824

連結損益計算書

(自 平成23年4月1日
至 平成24年3月31日)

科 目	内 訳	金 額
売 上 高	百万円	16,861 百万円
売 上 原 価		14,611
売 上 総 利 益		2,249
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,992
営 業 利 益		256
営 業 外 収 益		276
受 取 利 息 及 び 受 取 配 当 金	8	
受 取 地 代 家 賃	12	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	198	
貸 倒 引 当 金 戻 入 額	25	
そ の 他	32	
営 業 外 費 用		148
支 払 利 息	121	
そ の 他	27	
経 常 利 益		384
特 別 利 益		18
固 定 資 産 売 却 益	18	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	0	
特 別 損 失		15
固 定 資 産 処 分 損	2	
投 資 有 価 証 券 売 却 損	0	
訴 訟 損 失 引 当 金 繰 入 額	12	
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		388
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	30	
法 人 税 等 還 付 税 額	△47	
法 人 税 等 調 整 額	68	51
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益		337
当 期 純 利 益		337

連結株主資本等変動計算書

(自 平成23年 4月 1日
至 平成24年 3月 31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	2,651	924	2,275	△124	5,727
在外持分法適用会社の 会計処理の変更に伴う増減			△9		△9
当 期 変 動 額					
当 期 純 利 益			337		337
自 己 株 式 の 取 得				△0	△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当 期 変 動 額 合 計	—	—	337	△0	336
当 期 末 残 高	2,651	924	2,603	△125	6,053

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額				純資産合計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	為 替 換 算 調 整 勘 定	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	
当 期 首 残 高	△27	1,672	△144	1,500	7,227
在外持分法適用会社の 会計処理の変更に伴う増減					△9
当 期 変 動 額					
当 期 純 利 益					337
自 己 株 式 の 取 得					△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	54	157	△34	177	177
当 期 変 動 額 合 計	54	157	△34	177	513
当 期 末 残 高	26	1,830	△179	1,677	7,731

連結注記表

連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

子会社は全て連結しており、その数は6社であります。その会社名は、興信工業㈱・丸建工事㈱・丸建基礎工事㈱・東北工業㈱・東播工業㈱・九州レプロ㈱であります。

2. 持分法の適用に関する事項

- ① 関連会社は全て持分法を適用しており、その数は3社であります。その会社名は、協友リース㈱、THAI MARUKEN CO., LTD.、HIROSE MARUKEN VIETNAM COMPANY LIMITEDであります。
- ② 持分法の適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る計算書類を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、興信工業㈱・丸建基礎工事㈱・東北工業㈱・東播工業㈱・九州レプロ㈱の決算日は12月31日であります。

連結計算書類の作成に当たっては、それぞれ同日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの……決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの……移動平均法による原価法によっております。

② デリバティブ取引により生じる正味の債権（及び債務）の評価基準及び評価方法

時価法によっております。

③ 建設機材の評価基準及び評価方法

購入年度別、総平均法による原価から定額法による減耗費を控除した額（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

④ たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

a. 商品、材料貯蔵品……総平均法による原価法によっております。

b. 未成工事支出金……個別法による原価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。

なお、耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

機械装置及び運搬具 2年～18年

その他(工具器具備品) 2年～20年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

④ 長期前払費用

均等償却によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金……金銭債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案した信用格付けに基づく引当率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金……従業員への賞与支給に備えるため、支給見込額を計上しております。ただし、当社は賞与支給見込額を未払費用として計上しております。

③ 役員賞与引当金……当社及び連結子会社1社は、支給される役員賞与に備えるため、当連結会計年度発生額を計上しております。

- ④ 工事損失引当金……当社は、受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における請負工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつその金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。
なお、当連結会計年度はその発生額が無いため、工事損失引当金は計上していません。
- ⑤ 退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。
なお、会計基準変更時差異（619百万円）については、15年による按分額を費用処理しております。
過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を処理しております。
数理計算上の差異については、各連結会計年度における発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度より処理しております。
- ⑥ 訴訟損失引当金……係争中の訴訟に係る損失に備えるため、損失見込額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

(完成工事高の計上基準)

完成工事高の計上は、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(5) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

① ヘッジ会計の方法

(イ)ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理によっております。

(ロ)ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ヘッジ手段…金利スワップ取引
- ・ヘッジ対象…借入金金利

(ハ)ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度等を定めた社内管理規程に基づき、金利リスクの軽減、資金調達コストの低減を目的に金利スワップ取引を行っております。

(ニ)ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定できるため、ヘッジの有効性の評価を省略しております。

② 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税は税抜方式を採用しております。

(追加情報)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(法人税率の変更等による影響)

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成24年4月1日から平成27年3月31日 38.01%

平成27年4月1日以降 35.64%

この税率変更により、繰延税金資産は45百万円、再評価に係る繰延税金負債は157百万円それぞれ減少し、繰延税金負債は2百万円、その他有価証券評価差額金は0百万円、土地再評価差額金は157百万円、法人税等調整額は48百万円それぞれ増加しております。

連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産減価償却累計額 5,716百万円
2. 保証債務
従業員の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。
従業員（住宅資金） 68百万円
3. 土地の再評価
土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、平成14年3月31日に事業用の土地の再評価を行っております。
なお、再評価差額については、土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成11年3月31日公布法律第24号）に基づき、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
(再評価の方法)
土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額」に時点修正等の合理的な調整を行って算定しております。
再評価を行った年月日 平成14年3月31日
再評価を行った土地の期末における時価の合計額が再評価後の帳簿価額の合計額を下回る金額 2,610百万円
なお、「再評価を行った土地の期末における時価」は不動産鑑定評価を基礎とし、地価公示価格の推移を勘案して時点修正による補正等合理的な調整を行って算出しております。
4. 期末日満期手形等の会計処理
期末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。
受取手形及び売掛金 131百万円
支払手形及び買掛金 773百万円
5. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書に関する注記

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	34,294,400	—	—	34,294,400

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成24年6月22日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案することを予定しております。

決 議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	繰越利益 剰余金	66	2	平成24年 3月31日	平成24年 6月25日

3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主として建設基礎工事用仮設鋼材の賃貸及び販売、並びに補修・加工・運送等を行うための工場等の設備投資計画に基づいて、必要な資金を金融機関からの長期借入金を中心に調達しております。

短期的な運転資金については、金融機関からの短期借入金を中心に調達しており、一時的な余剰資金は、手元流動性を確保するため現預金として保有するか、または借入金の返済に充当することとしております。

なお、当社グループは、デリバティブ取引についてはデリバティブ取引管理規程を定め、リスクをヘッジする目的のみで行うこととしており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、大半が支払期日が1年以内であります。なお、当社グループは当連結会計年度末において、為替変動リスクがある外貨建ての営業債権及び営業債務は保有しておりません。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、設備投資に必要な資金調達や運転資金を目的としたものであり、借入金の返済予定日は最長で5年後であります。デリバティブ取引の利用にあたっては、借入金の将来の金利市場における金利上昇による変動リスクを回避することを目的とした金利スワップ取引に限定しております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等「4 会計処理基準に関する事項(5) その他連結計算書類の作成のための重要な事項①ヘッジ会計の方法」を参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規程である与信管理規程に基づき、営業債権について総務人事部法務審査課が全取引先の財務状態や経営成績を原則として四半期毎に精査した上で、そのランク付けを行っております。そして、そのランク付けに応じた信用限度額や鋼材貸出限度、貸倒引当金繰入額を定めております。連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて同様の管理を行っております。また、デリバティブ取引の利用にあたっては、格付けの高い国内の金融機関に限定しております。

- ② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理
投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握するとともに、四半期毎に経営会議においてその取引実績を報告しております。
また、デリバティブ取引についても、その取引状況を四半期毎に経営会議において報告しております。
なお、当社グループは為替変動リスクがある外貨建ての営業債権及び営業債務を保有していません。
- ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理
当社は、期初に開催される取締役会において年間の資金調達方針を審議の上決定しております。また、より効率的な資金管理を行い、キャッシュ・フロー経営を徹底するために、月次単位で資金予算を管理するなど、資金予算制度の充実を図っております。加えて、資金調達基盤の安定と効率を図ることを目的に、株式会社みずほコーポレート銀行をアレンジャーとする金融機関3行との間で総額15億円のコミットメントライン契約を締結しており、これらの諸施策を実行し手許流動性を確保することにより、流動性リスクを管理しております。
- (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。
- (5) 信用リスクの集中
当期の連結決算日現在における営業債権のうち33.8%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めておりません。(注2)を参照下さい)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,287	1,287	—
(2) 受取手形及び売掛金	6,776	6,776	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	306	306	—
資産計	8,371	8,371	—
(1) 支払手形及び買掛金	5,850	5,850	—
(2) 短期借入金	7,700	7,700	—
(3) 1年内返済予定の長期借入金	1,412	1,412	—
(4) 長期借入金	3,269	3,241	△27
負債計	18,231	18,203	△27
(5) デリバティブ取引	—	—	—

(注 1.) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金並びに(3) 1年内返済予定の長期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（(5) デリバティブ取引参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(5) デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているもの

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額の内 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	1,500	770	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注 2.) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	1,084

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(注 3.) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年内	1年超5年内	5年超10年内	10年超
現金及び預金	1,287	—	—	—
受取手形及び売掛金	6,776	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券（国債）	—	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの（国債）	—	—	—	—
合計	8,064	—	—	—

(注 4.) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年内	1年超2年内	2年超3年内	3年超4年内	4年超5年内
長期借入金	1,412	1,621	1,208	370	70
合計	1,412	1,621	1,208	370	70

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの純資産額	231円54銭
一株当たりの当期純利益金額	10円09銭

独立監査人の監査報告書

平成24年4月25日

丸紅建材リース株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
指定有限責任社員 公認会計士 小野 純 司 ㊞
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 柴田 純 孝 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、丸紅建材リース株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、丸紅建材リース株式会社及び連結子会社から成る企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

貸 借 対 照 表

(平成24年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	百万円		百万円
流動資産	16,928	流動負債	16,010
現金及び預金	1,180	支払手形	2,078
受取掛手形	2,381	買掛金	3,256
売掛金	4,041	短期借入金	7,700
建設機材	8,771	一年以内返済予定の長期借入金	1,412
商品	29	リース債務	26
材料貯蔵品	303	未払法人税等	27
前払費用	27	未払費用	798
工事支出金	47	未成工事受入金	22
繰延税金資産	73	役員賞与引当金	5
短期貸付金	7	その他	683
貸倒引当金	150	固定負債	4,691
固定資産	85	長期借入金	3,269
有形固定資産	10,523	リース債務	52
建物	654	再評価に係る繰延税金負債	1,107
構築物	165	退職給付引当金	195
機械装置	205	訴訟損失引当金	60
車両運搬具	0	その他	7
工具器具備品	23	負債合計	20,702
土	8,018	純 資 産 の 部	
リース資産	75	株主資本	4,893
無形固定資産	4	資本金	2,651
ソフトウエア	4	資本剰余金	924
電話加入権	0	資本準備金	662
投資その他の資産	1,375	その他資本剰余金	261
投資有価証券	419	利益剰余金	1,442
関係会社株	315	その他利益剰余金	1,442
保証付金	140	別途積立金	1,180
長期貸付金	282	繰越利益剰余金	262
長期未収入金	300	自己株式	△ 125
破産更生債権等	27	評価・換算差額等	1,857
長期前払費用	1	その他有価証券評価差額金	26
役員会権	71	土地再評価差額金	1,830
繰延税金資産	376	純資産合計	6,750
貸倒引当金	△ 560	負債及び純資産合計	27,452
資産合計	27,452		

損 益 計 算 書

(自 平成23年 4月 1日
至 平成24年 3月 31日)

科 目	内 訳	金 額
売 上 高	百万円	15,236 百万円
売 上 原 価		13,123
売 上 総 利 益		2,113
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,886
営 業 利 益		227
営 業 外 収 益		212
受 取 利 息 及 び 受 取 配 当 金	140	
そ の 他	72	
営 業 外 費 用		149
支 払 利 息	122	
そ の 他	27	
経 常 利 益		290
特 別 利 益		0
投 資 有 価 証 券 売 却 益	0	
特 別 損 失		2
投 資 有 価 証 券 売 却 損	0	
固 定 資 産 処 分 損	2	
税 引 前 当 期 純 利 益		288
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	18	
法 人 税 等 還 付 税 額	△47	
法 人 税 等 調 整 額	55	
当 期 純 利 益		262

株主資本等変動計算書

(自 平成23年 4月 1日
至 平成24年 3月 31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本								自己株式	株主資本 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金					
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合 計			
当 期 首 残 高	2,651	662	261	924	2,800	△1,619	1,180	△124	4,631	
当 期 変 動 額										
別 途 積 立 金 の 取 崩					△1,619	1,619	—		—	
当 期 純 利 益						262	262		262	
自 己 株 式 の 取 得								△0	△0	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									—	
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	△1,619	1,881	262	△0	261	
当 期 末 残 高	2,651	662	261	924	1,180	262	1,442	△125	4,893	

	評価・換算差額等			純資産合計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	△27	1,672	1,645	6,276
当 期 変 動 額				
別 途 積 立 金 の 取 崩				—
当 期 純 利 益				262
自 己 株 式 の 取 得				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	54	157	211	211
当 期 変 動 額 合 計	54	157	211	473
当 期 末 残 高	26	1,830	1,857	6,750

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法によっております。

②その他有価証券

時価のあるもの……決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの……移動平均法による原価法によっております。

(2) デリバティブ取引により生じる正味の債権(及び債務)の評価基準及び評価方法

時価法によっております。

(3) 建設機材の評価基準及び評価方法

購入年度別、総平均法による原価から定額法による減耗費を控除した額(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(4) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

①商品、材料貯蔵品……総平均法による原価法によっております。

②未成工事支出金……個別法による原価法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産……定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した(リース資産を除く)建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。

なお、耐用年数は以下のとおりであります。

建 物 3年～45年

構 築 物 3年～50年

機 械 装 置 2年～18年

車 両 運 搬 具 2年～6年

工 具 器 具 備 品 2年～20年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産……定額法によっております。ただし自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

- (3) リース資産……所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- (4) 長期前払費用……均等償却によっております。

3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金……金銭債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率を勘案した信用格付けに基づく引当率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 役員賞与引当金……支給される役員賞与に備えるため、当事業年度発生額を計上しております。
- (3) 工事損失引当金……受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における請負工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつその金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。
なお、当事業年度は、その発生額が無いため工事損失引当金は計上しておりません。
- (4) 退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。
なお、会計基準変更時差異（619百万円）については、15年による按分額を費用処理しております。
過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を処理しております。
数理計算上の差異については、各期における発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額をそれぞれ発生翌期より処理しております。
- (5) 訴訟損失引当金……係争中の訴訟に係る損失に備えるため、損失見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

(完成工事高の計上基準)

完成工事高の計上は当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税は、税抜方式を採用しております。

(2) ヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ヘッジ手段…金利スワップ取引
- ・ヘッジ対象…借入金金利

③ ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度等を定めた社内管理規程に基づき、金利リスクの軽減、資金調達コストの低減を目的に金利スワップ取引を行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定できるため、ヘッジの有効性の評価を省略しております。

(追加情報)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(法人税率の変更等による影響)

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成24年4月1日から平成27年3月31日 38.01%

平成27年4月1日以降 35.64%

この税率変更により、繰延税金資産の純額は44百万円、再評価に係る繰延税金負債は157百万円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金は0百万円、土地再評価差額金は157百万円、法人税等調整額は45百万円それぞれ増加しております。

貸借対照表に関する注記

(注 1.)	有形固定資産減価償却累計額	5,467百万円
(注 2.)	関係会社に対する短期金銭債権	233百万円
(注 3.)	関係会社に対する長期金銭債権	275百万円
(注 4.)	関係会社に対する短期金銭債務	472百万円
(注 5.)	保証債務	
	従業員(住宅資金)	68百万円

(注 6.) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、平成14年3月31日に事業用の土地の再評価を行っております。

なお、再評価差額については、土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成11年3月31日公布法律第24号)に基づき、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

(再評価の方法)

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額」に時点修正等の合理的な調整を行って算定しております。

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

再評価を行った土地の期末における時価の合計
額が再評価後の帳簿価額の合計額を下回る金額

2,610百万円

なお、「再評価を行った土地の期末における時価」は不動産鑑定評価を基礎とし、地価公示価格の推移を勘案して時点修正による補正等合理的な調整を行って算出しております。

(注 7.) 期末日満期手形等の会計処理

期末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

受取手形及び売掛金 131百万円

支払手形及び買掛金 773百万円

(注 8.) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書に関する注記

(注 1.) 関係会社への売上高	327百万円
(注 2.) 関係会社からの仕入高	525百万円
(注 3.) 関係会社との営業取引以外の取引高	144百万円
(注 4.) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。	

株主資本等変動計算書に関する注記

(注 1.) 当事業年度の末日における自己株式の種類及び株式数	
普通株式	902,653株
(注 2.) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。	

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

繰越欠損金	366百万円
貸倒引当金繰入限度超過額	192百万円
減損損失	124百万円
退職給付引当金	69百万円
未払賞与	36百万円
ゴルフ会員権評価損	23百万円
訴訟損失引当金	22百万円
関係会社株式評価損	19百万円
その他	29百万円
繰延税金資産小計	885百万円
評価性引当額	△430百万円
繰延税金資産合計	455百万円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	4百万円
繰延税金負債合計	4百万円
差引：繰延税金資産の純額	450百万円

リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、車両運搬具、工具器具備品等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース取引契約により使用しております。

関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

(単位：百万円)

種 類	会社等の 名称	議決権等の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科 目	期末残高
子会社	丸建基礎 工事㈱	直 接 100.00% 間 接 —	当社役員兼 任1名 当社従業員 兼任2名	長期貸付金の 回 収	50	長期貸付金	275
				利息の受取	2	未収収益	0
子会社	興信工業㈱	直 接 100.00% 間 接 —	当社従業員 兼任2名 当社従業員 出向2名	余 剰 資 金 の 預 り	280	そ の 他 の 流 動 負 債	280
				利息の支払	0		
関連会社	THAI MARUKEN CO., LTD.	直 接 49.00% 間 接 —	当社従業員 兼任2名 当社従業員 出向3名	技 術 指 導 料	6	未 収 収 益	5
				鋼材の販売 保証料の受入 (注 2.)	30 0	売 掛 金	11
関連会社	協友リース㈱	直 接 50.00% 間 接 —	当社役員兼 任2名 当社従業員 出向2名	鋼材の販売	193	売 掛 金 未 収 収 益	147 16
				鋼材の賃借及 び 仕 入	246	買 掛 金 未 払 費 用	50 57

(注 1.) 上記金額は、取引金額には消費税等を含んでおりません。また、期末残高のうち協友リース㈱に係るものは消費税等を含んでおり、それ以外の会社に係るものは消費税等を含んでおりません。

(注 2.) THAI MARUKEN CO., LTD. の当期中の銀行借入に対して債務保証を行ったものであり、年率0.2%の保証料を受領しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

鋼材の販売、賃借及び仕入については、市場価格に基づきその都度交渉の上決定しております。

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの純資産額
一株当たりの当期純利益金額

202円15銭
7円85銭

独立監査人の監査報告書

平成24年4月25日

丸紅建材リース株式会社
取締役会 御 中

有限責任 あずさ監査法人
指定有限責任社員 公認会計士 小 野 純 司 ㊞
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 柴 田 純 孝 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、丸紅建材リース株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第44期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告書

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第44期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、監査部その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。なお、財務報告に係る内部統制については、取締役等及び有限責任 あずさ監査法人から当該統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制も含め、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成24年4月26日

丸紅建材リース株式会社 監査役会

常 勤 監 査 役 小 野 信 ㊟
監 査 役 棚 橋 栄 蔵 ㊟
監 査 役 駒 木 義 之 ㊟

(注) 監査役 小野 信、棚橋栄蔵、駒木義之は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

株主総会参考書類

議案および参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、次の通りといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

当期の期末配当につきましては、財務状況や通期の業績等を総合的に勘案したうえで次の通りといたしたいと存じます。

(1) 配当財産の種類

金 銭

(2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当社普通株式1株につき金2円 総額66,783,494円

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

平成24年6月25日

第2号議案 取締役6名選任の件

現、取締役6名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、改めて取締役6名の選任をお願いしたいと存じます。

取締役候補者は次の通りであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
1	しみずのりひろ 清水教博 (昭和25年3月21日生)	昭和49年6月 丸紅㈱入社 平成10年4月 同社開発建設第一部長 平成15年3月 同社開発建設部門長代行 平成15年4月 同社執行役員、開発建設部門長 平成18年4月 同社常務執行役員、開発建設部門長 平成19年4月 同社常務執行役員、社長補佐、開発建設部門、金融・物流・新機能部門管掌役員 平成19年6月 同社代表取締役常務執行役員、社長補佐、開発建設部門、金融・物流・新機能部門管掌役員 平成20年4月 同社取締役常務執行役員、中国総代表、丸紅中国会社社長、北京支店長 平成20年6月 同社常務執行役員、中国総代表、丸紅中国会社社長、北京支店長 平成22年4月 当社顧問 平成22年6月 当社代表取締役社長 (現在に至る)	14,000株

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する当社 の 株 式 数
2	<p style="text-align: center;">ま なか ひとし 真 中 均</p> <p>(昭和26年11月28日生)</p>	<p>昭和50年4月 当社入社</p> <p>平成13年4月 当社東京支店長</p> <p>平成14年4月 当社営業第一本部長、東京支店長</p> <p>平成14年6月 当社取締役、営業第一本部長、東京支店長</p> <p>平成16年5月 当社常務取締役、営業第一本部長、東京支店長</p> <p>平成17年1月 当社常務取締役、東京営業本部長</p> <p>平成18年10月 当社常務取締役、営業本部副本部長、海外営業担当</p> <p>平成19年4月 当社常務取締役、営業本部副本部長、プロジェクト推進部担当</p> <p>平成20年4月 当社常務取締役、事業推進部担当</p> <p>平成21年4月 当社常務取締役、営業本部長</p> <p>平成24年4月 当社専務取締役、営業本部長 (現在に至る)</p>	48,000株
3	<p style="text-align: center;">さい とう まさ み 齊 藤 正 視</p> <p>(昭和27年6月6日生)</p>	<p>昭和50年4月 丸紅㈱入社</p> <p>平成2年4月 丸紅米国会社</p> <p>平成9年4月 丸紅㈱業務部総務企画課長</p> <p>平成12年4月 同社経営企画部副部長</p> <p>平成14年4月 丸紅米国会社C F O & C A O</p> <p>平成18年4月 丸紅㈱市場業務部長</p> <p>平成21年4月 同社北海道支社長</p> <p>平成23年4月 当社経営管理本部長</p> <p>平成23年6月 当社取締役、経営管理本部長、環境安全部・海外事業部担当</p> <p>平成24年4月 当社常務取締役、経営管理本部長、海外事業部担当 (現在に至る)</p>	2,000株

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する当社 の 株 式 数
4	いし ぎき ひさ お 石 崎 久 雄 (昭和29年 8 月 2 日生)	昭和53年 4 月 当社入社 平成11年 4 月 当社大阪支店次長兼営業課長兼安全課長 平成13年10月 当社大阪支店長 平成18年 4 月 当社総務人事部長 平成21年 4 月 当社経営管理本部副本部長兼総務人事部長 平成22年 4 月 当社経営管理本部副本部長兼総務人事部長兼環境安全部・海外事業部担当役員補佐 平成22年 6 月 当社取締役、経営管理本部副本部長、総務人事部長、環境安全部・海外事業部担当役員補佐 平成23年 6 月 当社取締役、経営管理本部副本部長、総務人事部長、監査部・環境安全部担当役員補佐 平成24年 4 月 当社取締役、経営管理本部副本部長、総務人事部長、環境安全部担当、監査部担当役員補佐 (現在に至る)	28,000株
5	おか もと たつ や 岡 本 達 哉 (昭和31年 6 月11日生)	昭和55年 4 月 当社入社 平成13年 4 月 当社名古屋支店次長兼営業課長 平成15年 5 月 当社名古屋支店副支店長 平成16年 4 月 当社名古屋支店長 平成22年 4 月 当社営業本部副本部長 平成22年 6 月 当社取締役、営業本部副本部長 平成22年10月 当社取締役、営業本部副本部長、東京本店長 (現在に至る) [重要な兼職の状況] 平成24年 2 月 協友リース(株)代表取締役社長	11,000株
6	い の う え ま さ ひろ 井ノ上 雅 弘 (昭和37年 7 月28日生)	昭和60年 4 月 丸紅(株)入社 平成16年 4 月 同社ヨハネスブルグ支店 平成19年 4 月 同社ヨハネスブルグ副支店長 平成21年 4 月 丸紅テツゲン(株)出向 平成22年 4 月 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)出向 平成23年 4 月 丸紅(株)鉄鋼製品事業部長 平成23年 6 月 当社取締役 (現在に至る)	0株

- (注1.) 各取締役候補者（6名）と当社との間には、特別の利害関係はありません。
- (注2.) 井ノ上 雅弘氏は、社外取締役候補者であります。
- (注3.) 社外取締役候補者の選任理由について
井ノ上 雅弘氏は、鉄鋼業についての幅広い知識を有しており、当社の経営に有用であると判断したため、社外取締役として選任をお願いするものであります。
- (注4.) 井ノ上 雅弘氏は、現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって1年となります。

第3号議案 監査役3名選任の件

現、監査役3名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、改めて監査役3名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、本議案につきましては、あらかじめ監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次の通りであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位および重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
1	おのまこと 小野 信 (昭和29年4月7日生)	昭和53年4月 丸紅㈱入社 平成8年4月 丸紅英国会社 平成13年10月 丸紅㈱リスクマネジメント部RM 総括課長 平成15年4月 同社リスクマネジメント部副部長 平成18年4月 同社資材・紙パルプ総括部長 平成20年4月 同社ライフスタイル総括部長 平成21年4月 同社ライフスタイル部門長補佐兼 ライフスタイル総括部長 平成22年4月 同社鉄鋼製品事業部長付 平成22年6月 当社常勤監査役 (現在に至る)	4,000株
2	たなはしえいぞう 棚橋 栄蔵 (昭和29年4月26日生)	昭和62年10月 司法試験合格 平成2年4月 弁護士登録（第一東京弁護士会所属） 設楽・阪本法律事務所勤務 平成12年4月 棚橋・小澤法律事務所開設 平成17年6月 当社監査役（非常勤） (現在に至る)	0株

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位および重要な兼職の状況	所有する当社の 株 式 数
3	と やま し ろう 外 山 史 朗 (昭和39年6月30日生)	昭和62年4月 丸紅㈱入社 平成4年4月 同社ナイロビ支店 平成8年4月 同社鋼板貿易部 平成13年4月 同社鉄鋼製品部 平成16年10月 伊藤忠丸紅鉄鋼㈱入社 平成17年4月 同社鋼材貿易第一部熱延鋼板課長 平成20年4月 同社鋼材貿易部長代行 平成21年4月 伊藤忠丸紅鉄鋼貿易（上海）有限 公司総経理 平成24年4月 丸紅㈱鉄鋼製品事業部副部長 (現在に至る)	0株

(注1.) 各監査役候補者（3名）と当社との間には、特別の利害関係はありません。

(注2.) 小野 信、棚橋栄蔵および外山史朗の各氏は、社外監査役候補者であります。なお、当社は棚橋栄蔵氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

(注3.) 社外監査役候補者の選任理由について

小野 信氏は、事業会社運営管理などに関する幅広い知識・経験と、当社における2年間の常勤監査役経験を通じて、法務・財務・会計に関する相当程度の知見を有しており、当社の監査に反映していただくために、社外監査役として選任をお願いするものであります。

なお、同氏の当社社外監査役在任期間は本総会終結の時をもって2年となります。

棚橋栄蔵氏は、弁護士として長年培ってきた法務・財務・会計に関する相当程度の知見を有しており、当社の監査に反映していただくために、社外監査役として選任をお願いするものであります。なお、同氏は、過去に社外監査役となること以外の方法で会社経営に関与したことはありませんが、上記の理由により社外監査役として、その職務を適切に遂行していただけると判断しております。

同氏の当社社外監査役在任期間は本総会終結の時をもって7年となります。

外山史朗氏は、鉄鋼業についての幅広い知識を有しており、当社の監査に反映していただくために、社外監査役として選任をお願いするものであります。

なお、同氏は、新任社外監査役候補者であります。

第4号議案 補欠監査役1名選任の件

法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、あらかじめ監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は次の通りであります。

氏名 (生年月日)	略歴および重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
くろ だ たかし 黒 田 崇 (昭和47年2月23日生)	平成6年4月 丸紅㈱入社 平成8年4月 同社経理部 平成16年4月 同社食料経理部 平成19年10月 同社鉄鋼製品事業部 平成23年4月 同社鉄鋼製品事業部事業管理課長 (現在に至る)	0株

(注1.) 補欠監査役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

(注2.) 黒田 崇氏は、社外監査役補欠候補者であります。

(注3.) 補欠監査役候補者の選任理由について

黒田 崇氏は、法務・財務・会計に関する幅広い知識を有しており、当社の監査に反映していただくために、社外監査役の補欠候補者として選任をお願いするものであります。

以 上

A series of 18 horizontal dotted lines spanning the width of the page, providing a template for handwriting practice.

